

## 令和2年度「第5回 貝原俊民美しい兵庫づくり賞」の受賞者

「第5回 貝原俊民美しい兵庫づくり賞」の受賞者とその功績は次のとおりです。

### 「第5回 貝原俊民美しい兵庫づくり賞」受賞者（2団体、1個人）

氏名／団体名	功 績 等
認定特定非営利活動法人 女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ	<p>平成4年(1992)に男女平等社会の実現をめざすグループとして発足。平成19年(2007)にNPO法人格を取得、平成27年(2015)認定NPO法人資格を取得。</p> <p>男女がお互いにその人権を尊重し、責任を分かち合い、その能力を発揮することができ、安心してのびやかに生きることができるよう、女性や子どもの人権の擁護、福祉の増進、男女共同参画社会の形成と子どもの健全育成の推進を目的としている。</p> <p>震災を契機にDV被害女性を始め、性暴力被害者に対する支援を始めた後、民間シェルターを運営。その後の後遺症のケア、貧困・孤立からの生活再建支援、住まいの確保、転居費用の確保などの居住支援活動を年間60件実施するなど、被害女性への総合的な支援を行っている。</p> <p>女性と子どもが安心できる居場所「WACCA」を運営し、困難を抱える女性とその子どもを多面的に支援している。</p> <p>学校・企業向けのDVに関する学習会、サポーター養成講座を開催するほか、中学生・高校生・大学生に向けてのデートDV防止講座を開催している。</p> <p>令和元年(2019)から兵庫県居住支援法人に指定され、支援活動を推進している。</p>
兵庫県災害医療センター	<p>阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ平成15年(2003)設立。</p> <p>「救命救急医療」と「災害医療」の2本柱の下、県内唯一の「高度救命救急センター」・「基幹災害拠点病院」として県民の救急や災害発生時の命を救うリーダー的な役割を担っている。</p> <p>国内では、医師、看護師、業務調整員(医師・看護師以外の医療職及び事務職員)から構成される日本DMAT隊員養成研修を実施することで、災害急性期に活動する日本DMAT隊員の育成に努めている。平成18年度(2006)から厚生労働省の委託を受け、全国の医療チームを集めて年間約500人、これまで6,699人の隊員を養成し、国内災害発生時に隊員や災害医療コーディネーターチームを被災地に派遣し活動している。</p> <p>海外における災害では「JICA国際緊急援助隊(JDR)」の医療チームや「認定NPO法人災害人道医療支援会(HuMA)」の医療チームに職員を派遣することで災害援助を行っている。その他、JICA関西からの委託を受け「中南米災害医療マネジメントコース」を開院当初から実施し、中南米諸国の医療従事者を中心とした人材育成を行うことで国際的貢献を果たしてきた。</p>

氏名／団体名	功 績 等
鈴木 克哉 [特定非営利活動法人里地里山問題研究所代表理事]	<p>昭和50年(1975)生まれ。</p> <p>学生時代に、青森県下北半島で北限のニホンザルによる農作物被害問題に関する研究に着手。被害を引き起こすサルの生態調査に加えて、地域住民の被害に対する受け止め方や対応など社会科学的調査を取り入れた研究をはじめ。</p> <p>平成2年(2008)から7年間、兵庫県立大学／兵庫県森林動物研究センターで兵庫県のニホンザル管理を担当、効果的な被害管理手法の開発と住民支援体制の構築に取り組み、丹波篠山市と連携して農地の被害を半減した。</p> <p>平成27年(2015)特定非営利活動法人里地里山問題研究所を設立。確実な手法で「害」を軽減するとともに地域を活性化していく新しい「獣がい」対策の普及を進めている。</p> <p>地域創生に貢献する関係人口の創出活動(獣がいから地域を守る都市×農村連携プロジェクトなど)や、新たな担い手づくりのための「獣がい対策」実践塾を運営。様々な現場体験、企画づくりを通じて地域を元気にする獣がい対策を行っている。</p> <p>近年は獣がい対策の先駆的存在である島根県美郷町と連携協定を結び「獣がい対策」のネットワークの拡大に向けて活動を展開している。</p>